

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2011年度 年度計画の概要

研究・教育の質の向上に関する目標を達成するための措置

国際的に通用する人材の育成

神戸市外国語大学の特色である少人数による密度の高い語学教育と文化・歴史から社会・経済にわたる幅広い教養教育を更に充実させるとともに、質の高いコミュニケーション能力と情報リテラシー(情報を使いこなす能力)を備え、国際社会において自らの見識に基づいて行動できる人材を育成する。



1 国際的に通用する人材の育成

- 国際的な知識と柔軟な判断力を持つ「行動する国際人」の養成を本学の教育基本理念として定め、それぞれの言語の特性とその背後に広がる文化にも通じた「洗練された外国語能力」が獲得できる新しいカリキュラムを構築する。(2009 新カリキュラム実施)

(1) 複数外国語を使える高い語学力の育成

- 専攻・兼修語学の少人数化(2008以降順次実施)
- 専攻語学以外の言語の充実(2009 ドイツ語・兼修フランス語の充実 など)

(2) 国際コミュニケーション能力の強化

- 言語コミュニケーションの理論と実践に焦点を絞り、会議通訳者などのスペシャリストを育成する国際コミュニケーション特別コースを設置(2009 コース設置、2011 TOEFL(iBT)102=TOEIC900以上)
- 学部から修士課程まで一貫したカリキュラム、ダブルマスター制度を検討(2012 検討)

(3) 情報化社会への対応

- 情報の集積・共有化を図るとともに、教室環境や情報基盤ネットワークのなどを再編、最適化(2012 5人/PC1台)
- 学生の情報リテラシーを高め、教育工学分野等の人材育成を図るため、関連カリキュラム等を充実(2012 経済産業省標準のITスキル達成)

(4) 学生アメニティの拡充

- 学生数増加等に伴う施設拡充(2007 学生会館増築、2008図書館増築、2009以降トイレ改修など順次実施)
- 施設保全計画に基づく計画的な補修(2007以降順次実施)

(5) 学生への生活支援と進路・就職支援

- キャリア形成のための講座を充実強化(2007以降順次実施)、卒業生と学生・教員のネットワーク構築を同窓会等の支援も得て実施(2010実施)
- 学生ニーズの的確な把握システムを整備し、個別ニーズに応じた相談体制の整備(2007以降順次実施)

新規

新規

新規

新規

新規

- 新カリキュラムへの全面移行(2012年度に全学年適用)に向けた取組(語学授業の少人数クラス化、授業コマ数の適正化等)
- 新カリキュラムの今後必要な科目充実や教育成果のさらなる向上方策の検討
- 授業評価アンケート、学生との座談会、FD通信の発行等を通じて、学生の授業や学生生活全般に対する要望や意見への対応

拡充 ●受験生へのアドミッションポリシーのPR(外国学を志向する優秀な学生確保)

- 語学授業クラスの少人数化を実施
- 学生ニーズも踏まえた兼修語で開講する言語の検討

拡充 ●第3AV教室の更新(語学授業の充実)

- 初めてのコース卒業生の語学力進捗調査(教育成果の確認と学外へのPR)
- 通訳翻訳学領域(2012年度に大学院修士課程英語学専攻内に設置予定)の設置準備、1期生の募集
- ダブルマスター制度の導入を視野に入れた海外の大学院等との協議を継続

●国立情報学研究所の学術認証フェデレーションへの参加検討

- 拡充 ●学内共用パソコンの充実(学生が利用可能なPCの増設)
- 学術情報の学外への発信強化を検討(リポジトリの構築準備)

拡充 ●学生の図書館利用促進や情報リテラシーの向上(ガイダンス充実等)

拡充 ●学生会館小ホールの音響設備等のリニューアル(語劇祭の練習環境)

- 拡充 ●三木記念会館の空調・照明設備、内装等のリニューアル
- 楠ヶ丘会館空調設備、グランド照明設備の更新工事

●キャリアデザイン科目の新設、インターンシップ経験促進等、キャリア形成を支援

- 全学生へのTOEIC受験機会の提供
- 語学能力を活かし活躍する卒業生の講演会等の機会の検討
- 学生への相談支援において、教職員と学生相談室の連携を強化

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2011年度 年度計画の概要

高度な研究・教育の推進

高度な語学力によって海外の最新情報を収集し、紹介することとどまらず、その背後にある歴史・社会・文化の分析と比較を通して新たな知見を開拓し、その研究成果を国内外に広く発信する「発信型」の研究拠点へと変革していく。

また、教員の活発な研究活動と学外・海外の研究者との交流の中で、修士課程・博士課程の院生を国際的に通用する研究者として育成していく。



2 高度な研究・教育の推進体制

(1) 外国学の研究拠点と研究成果の発信

- 可能な限り多くの教員が申請に参加し科学研究費補助金のさらなる獲得(2012 新規申請数 24件、獲得件数(新規・継続) 30件)
- アジア言語やヨーロッパ文化など高い水準の研究スタッフを組織化し、大学独自の研究プロジェクトを実施(2010 プロジェクト開始)
- フランス科学院(CNRS)アジア部門、ブータン研究センターとの提携を検討するとともに、ロシア・中国・イスパニア・オーストラリア等の研究機関との提携も模索する。(2007以降順次検討・実施)

(2) 研究と教育をリンクさせた大学院教育

- より魅力のある大学院づくりを行うため、カリキュラム全体の見直しを行う。(2012 院生が海外の学会発表実施)
- 特色GPの成果の反映及びリカレント・プログラムの特殊性を考慮し、学生満足度の向上を目指す。(学生満足度の充実 2012まで順次実施)
- 院生に海外で研究する機会を提供するため、海外の大学院との提携や院生の派遣を行う。(2007以降順次実施)

新規

- 拡充 ●若手教員、客員研究員への科学研究費補助金の申請支援を強化
- 日本学術振興会の特別研究員などへの積極的な申請を実施
- 2つの国際会議を開催
 - ・第17回国際ヒマラヤ言語学シンポジウム(東京外国語大学と共催)
 - ・第2回国際セミナー(バスク大学(スペイン)と共催)

拡充 ●海外の研究機関との学術提携の推進

- 参考 2008年度 :ブータン国立ブータン研究センター(ブータン)、北京語言大学(中国)、カールトン大学(カナダ)
- 2009年度 :オーストリア学術アカデミー・アジア文化研究所(オーストリア)
- 2010年度 :ポーランド学術アカデミー(ポーランド)



拡充 ●大学院教育の新たな理念(2010年度策定)に基づき、カリキュラム改革の検討を進める

(研究者以外の多様なキャリアを目指す学生の受入、社会人特別選抜の導入、大学院教育における海外の大学院等との提携や外国人留学生の受入等が特徴)

拡充 ●大学院生の研究活動の支援(海外での研究発表への助成制度の運用開始、大学院生の外部研究資金獲得の支援)

- 東京外国語大学との第2回共同セミナーを開催
- 英語教育学専攻(リカレントプログラム)の教職員、院生、修了生のネットワークを通じたプログラムのさらなる活性化と地域貢献事業の展開
- 海外の大学院との提携(天津外国語大学(中国)やロンドン大学SOAS(イギリス)等とのダブルマスター制度を視野に入れた協議の継続)

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2011年度 年度計画の概要

地域貢献

神戸市や地元企業などと連携して、神戸市外国語大学が持つ知的資源を様々な形で地域社会に提供し、文化面・社会面・経済面での活性化を図っていくとともに、神戸市の教育拠点としての役割を担っていく。



3 地域貢献

(1) 社会人を対象にした教育の充実

- 地域社会の知的需要に対応するため、特定のテーマを系統的に学べる社会人向け講座を新設。(2008 一部実施)
- その他のさまざまな方策について検討(2007 検討体制の構築)
- 第2部の定員削減と新コース設置等を考慮した学部定員の増加(2009 実施)

(2) 神戸市の教育拠点としての役割の充実

- 小学校教員を対象に英語教授法などの研修を実施(2009 実施)
- 小・中・高等学校へセミナーや出前授業を実施(2008 実施)
- 商工会議所等で実施する講座などに、本学教員を講師として派遣(2008 実施)

(3) 推薦入学制度の拡充

- 推薦入学枠の拡大など制度拡充(2009 実施)

(4) 神戸市教育委員会との連携

- 全学的な「連携協議会(仮称)」を設置(2007 実施)
- スクールサポーター制度や学校インターンシップ制度への対応を充実するためプロジェクトチームを設置(2008 設置)
- 小学校での英語活動に貢献できる人材を育成、教育実習等への支援体制を構築(2008 支援体制の充実)

(5) ボランティア活動の支援体制の充実

- ボランティアコーナーの支援・啓発を充実・実施(2007以降順次実施)

新規

- 「小学校外国語活動基本研修」を実施し、神戸市内の小中学校全教員の英語教育に関する研修実施を担う。(神戸市教育委員会からの要請への対応)
- イングリッシュサポーター制度への協力(本学生を小学校に派遣)
- 中学生と本学教員・学生等が交流する「サマースクール」、中高英語教員への「スキルアップ研修」、神戸市立高等学校との相互の教員派遣を継続実施

拡充 ● 行政や企業等が主催する講座等への教員派遣先を開拓

- 外国語等に関心の高い地元の優秀な学生の積極的な受入(推薦入試の市内枠及び全国枠等)

拡充 ● 神戸市内の高等学校への入試広報の強化

- 連携協力協定に基づく「アクションプラン」の着実な推進
- 教職志望学生をスクールサポーター等として学校現場に派遣

拡充 ● 教職志望学生への就職支援の強化(対策講座の充実、介護等体験の相談支援等)

拡充 ● 小学校の英語活動に貢献する人材を継続的に輩出するため、小学校教諭一種免許状の取得制度を運用、就職希望者への相談支援を充実

- 参加者数が急増する学生ボランティア活動について、さらなる啓発や情報提供

拡充 ● 学生の参加希望の多い国際支援や子どもの教育支援など、ボランティア要請へのマッチングを実施

拡充 ● 学生の主体的なボランティア活動に対する大学の今後の支援のあり方を検討

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2011年度 年度計画の概要

国際交流

留学生や教員・研究者の受入れと派遣などにより教育・研究における国際交流を推進していく。

また、外国語大学の特色と知的資源を活用して、神戸市や地元企業などが政治面・経済面・文化面において行う国際交流を支援する体制を整えていく。



4 国際交流

(1) 国際交流部門の組織的基盤の確立

- 国際交流センターの体制・機能のさらなる充実 (2007以降順次検討・実施)

(2) 留学支援体制の充実

- 交換留学生(短期)の受入をさらに充実するために「日本語教育プログラム」を実施(2008 実施)(2012年度の目標受講生数10人)
- 外国人留学生の生活支援のため「留学生生活支援ボランティア」を組織化する。
- 公費派遣留学制度の充実(2012 交換・派遣留学生の増加)

(3) 海外の研究教育機関との連携の拡充

- 海外研究機関からの教員の受入拡充(2012 実施)

(4) 神戸市および地元企業との国際交流支援

- 姉妹都市交流など様々な国際交流を支援(2008 実施)
- 学生・院生からボランティアグループの組織化(2008 実施)

新規

新規



- 拡充** ● 国際交流センターの一部を学内移転し、相談スペースを確保するなど、本学生と外国人留学生が交流しやすいスペースとしてリニューアル
- 関係教職員だけでなく、学生アシスタント、ALT等の協力も得て、学内外の国際交流事業を活発に展開(各種情報提供、ネイティブとの英会話・日本語会話事業や本学生と留学生の交流事業)

● 外国人留学生の受け入れ

- ・「日本語プログラム」を実施し、海外の提携大学等から受講生(外国人留学生)を受け入れる
- ・生活支援、日本語会話を支援するボランティアを本学生から募集
- ・大学院生や研究生の外国人留学生への日常生活等の支援のためのリーフレットを作成・配布

● 本学生の海外留学支援

- ・短期留学の派遣制度で、モスクワ大学(ロシア)への派遣を開始 (参考)短期留学先 UCLAエクステンション(アメリカ)、セゴビア(スペイン)、アメリカ・インスティテュート(オーストリア)
- ・参加学生数が急増する短期留学制度の新たな提携先の模索
- ・本格的な交換留学・長期派遣留学を目指す学生への支援策の充実を検討

● ロシア、中国、スペインからの交換教員の受け入れ

- 拡充** ● 海外の研究機関等からの外国人の客員研究員の受け入れ(オタゴ大学(ニュージーランド))

- アジア陸上競技選手権大会に本学学生を通訳ボランティアとして派遣
- その他、神戸市等から通訳等の国際交流支援や異文化交流事業への参加要請があれば学生ボランティアを派遣

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2011年度 年度計画の概要

柔軟で機動的な大学運営

理事長兼学長の適切な運営の下に学外からの意見も積極的に採り入れ、時代と社会の変化に迅速に対応し、自律的で効率的な大学運営を行う。



業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

1 運営体制の改善

- 自律的・効率的な大学運営(2007 理事会設置、委員会再編)
- 迅速で戦略的な意思決定制度(2007 理事補佐、経営企画室設置など)
- 学外との情報の受発信(2007 既存広報媒体の見直し・充実)

2 人事の適正化

- 雇用形態の多様化(2007以降順次実施)
- 業績評価システムの導入(2007以降順次実施)
- 人材育成の推進を図る。特に事務職員に対し大学業務の高度化・専門化へ対応するために、研修等を実施(2007 研修計画策定)
- 意欲向上に適した手当の見直し など

3 事務などの効率化・合理化

- 専門職員を順次配置し、サービスの質を向上(2007以降順次実施)
- 事務組織・執行体制の見直し(2007 実施)
- 事務処理の簡素化・効率化(2007 実施)

財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

1 外部研究資金その他の自己収入の確保

- 学生納付金の定期的な見直し・適正化の検討実施(2007 順次実施)
- 大型科学技術研究費など外部研究資金の獲得
- 多様な自己財源の確保(2007 順次検討実施)

2 経費の抑制

- 総人件費の抑制及び管理運営コストの削減(2007 管理運営業務の総点検 など)
- 戦略的な予算配分が行える仕組みを構築

3 資産の運用管理の改善

- 学舎等老朽施設・設備の計画的な改修(2007 順次実施)
- AV教室等学内ネットワークの整備(2012 AV教室利用率65%)
- 資産の積極的活用と適正な利用料の設定(2007 利用金再設定)

新規

新規



● 大学運営

- ・新しい役員体制において、理事長のリーダーシップのもと担当理事による迅速かつ効率的な執行体制を確保
- ・経営協議会委員に、学外の有識者を委嘱
- ・委員会等の再編(入試委員会内の2部会の統合、司書課程部会の設置)
- ・第2期中期計画の学内検討体制の整備

● 広報の戦略的な展開

- ・地域や企業、行政への広報強化(報道機関等への情報提供)
- 拡充 受験者や企業へのPR強化(卒業生の活用、入試広報の強化、神戸市内の高校の進路担当教諭等への情報発信)
- ・ホームページの英語等による情報発信の充実

● 人事、人材育成

- ・各専門分野で研究業績の優れた教員の採用、客員教員等の採用
- 拡充 教員の在外研究制度、特別研修制度の実施
- 拡充 固有職員への研修、近隣大学との共同での研修を実施
- 事務などの効率化・合理化(事務改善等)

● 外部研究資金その他の自己収入の確保

- ・授業料の分納制度の運用を開始
- ・科学研究費補助金の間接経費、寄附金、施設貸出使用料、市民講座等受講料など、多様な財源の確保

● 経費の抑制

- ・総人件費の抑制、管理運営コストの節減

● 資産の運用管理の改善

- ・老朽施設・設備の改修にあわせエネルギー効率の高い機器の採用等
- ・教員ニーズも踏まえ、第3AV教室の更新、普通教室のAV化を推進
- ・施設の外部団体等利用を促進し、研究発表や語学試験等の誘致推進や、図書館の市民利用制度の拡充の試行実施を継続

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2011年度 年度計画の概要

柔軟で機動的な大学運営

理事長兼学長の適切な運営の下に学外からの意見も積極的に採り入れ、時代と社会の変化に迅速に対応し、自律的で効率的な大学運営を行う。

点検及び評価並びに情報の提供に関する目標を達成するための措置

1 評価の充実

- 理事長直属の委員会を設置し、中期計画・年度計画の達成度等を評価 (2007 委員会設置)

● 評価結果の公表

2 積極的な情報公開

- 説明責任を果たすため、法人業務運営状況を公開 (2007 順次実施)

その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

- 環境マネジメント活動を継続 (2007 継続実施)
- 災害等に対する危機管理体制を確立 (2007 マニュアルの策定)
- 適切な情報管理 (2007 情報管理体制の整備)
- 法令順守
- 内部統制機能の確保 (2007 内部統制システムの構築)

新規

● 評価の充実

- 2010年度自己点検評価結果でB評価となった事業の2011年度の進捗確保
- 第2期中期計画の学内の検討体制を整備し、本格的な検討に入る。

● 積極的な情報公開

- ホームページ上での研究教育情報の発信
- 拡充 文部科学省の教育情報公開に関する制度改正への対応

● KEMSステップ2の認証取得に基づく環境マネジメント計画の実行

- 拡充 保健室だよりの通年発行など、保健支援の充実
- 東北地方太平洋沖地震への適切な対応を行う。
- 拡充 海外渡航中の学生や教職員の危機管理マニュアルを策定
- 情報セキュリティに関する教職員研修
- 個人情報保護、コンプライアンス
- 内部監査室による内部統制(個別業務の検証評価等)